

# 都市型水害 編

Hayasaka Report 2017.6



発行

都議会  
自民党

東京都議会議員

## 早坂よしひろレポート

### ヒートアイランド現象で、 雨の降り方が明らかに変わってきています。



善福寺川・大谷戸橋周辺

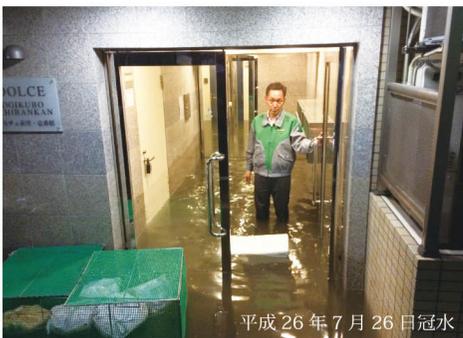
#### 都市型水害とは何ですか

ヒートアイランド現象などにより、局所的な集中豪雨が頻発するようになりました。都市のアスファルト化により、それらの雨水が大地で吸収できず中小河川や下水道に流入し氾濫する、都市特有の水害のことです。

#### 杉並区ではどのような例がありますか

平成17年9月の、1時間雨量112ミリの大雨被害が記憶に新しいところです。東京都は昭和43年以来、1時

気象庁発表(H29・5・24)によると、平成29年の夏は暑くなるとの見通しだ。その分、ゲリラ豪雨の発生も多くなると思われる。そこで都市型水害について考える。



平成26年7月26日冠水

#### 河川の水害対策はどのようなものですか

基本的には流量を増やすために、川幅を拡げ、川底を掘るものです。その拡張工事は、海に面した下流からコツコツと進めて行かなければなりません。なぜなら河川の途中の部分から拡張工事を始めると、そのすぐ下流の部分では増えた分の流量を受け止められず、溢れることになるからです。海から河川の上流部まで工事を進めるには、気の遠くなるような時間がかかります。それを補うのが、調節池です。

#### 調節池とはどのようなものですか

河川から溢れそうな雨水を一時、貯めておく池のことです。環状7号線地下調節

池は、25メートルプール換算で1800個分の雨水を貯めておくことができます。調節池の長所はふたつあります。ひとつは、調節池のすぐ下流の洪水を減らすことができること。もうひとつは、調整池から上流部の拡張工事を(海からの拡張工事を待たずに)始められることです。ちなみに環状7号線地下調節池には、事業費1010億円、工事に20年間を要しました。

〈裏面〉

#### プロフィール

- 昭和43年 荻窪の東京衛生病院生まれ(48歳)
  - 西田幼・西田小・松漢中卒業、大検合格
  - 立教大学法学部(北岡伸一ゼミ)卒業
  - 働きながら明治大学公共政策大学院(青山併ゼミ)修了
  - 防災情報機構NPO法人事務局次長として全国講演
  - 平成17年 東京都議会議員に初当選(現在3期目)
  - 東京都議会防災議連幹事 ●都議会予算特別委員長など歴任
  - 明治大学客員研究員 ●日本AED財団常務理事
- <災害調査>  
米国 ハリケーンカトリーナ、  
中国 四川大地震 他、国内外多数。  
東日本大震災では発災当日に被災地入りし、  
支援活動を行う。

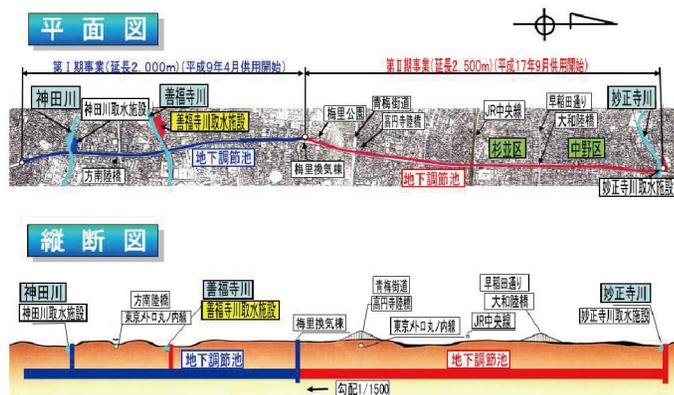


早坂よしひろ  
ミスター防災

# 何と地下室は子供部屋に なっていました。

そのお蔭で、もう  
安全になりましたか

残念ながらそうではありません。まず、計画自体は1時間雨量75ミリに引き上げられましたが、その整備は、平成28年度から始まったばかりです。また、20年に1度の降水確率とされている1時間雨量75ミリの降雨が都内全域で、この10年間で14回も降っています。(つまり20年なら28回という計算になります。) 112ミリの降雨すらあったことは、冒頭に



述べたとおりです。ヒートアイランド現象で、局所的な集中豪雨が発生するなど、雨の降り方が明らかに変わってきています。計画も工事も、その変化に全く追いついていません。

今後の河川対策は  
どうしたらいいでしょう

今の工事のピッチを上げることはもちろんですが、それでは到底追いつきません。都民の皆さんご自身が、主体的に対策をとって頂く必要があります。河川溢

水常襲地の新築戸建住宅で、地下室が設けられている例がありました。私が溢水現場で確認したところ、何と地下室は子供部屋になっていました。被害が発生してから、いくら行政を責めても、取り返しがつきません。ご自身で、意識を高く持っていたく必要があります。ハザードマップを確認し常襲地にお住まいの方々には、雨の降り方が変わってきていることを強くご認識頂くことが第一です。

下水道の水害対策は  
どのようなものですか

下水道には生活排水に加え、雨水も流れるようになっていきます。杉並区でいえばJR阿佐ヶ谷駅周辺



平成26年7月26日冠水



平成26年6月環状8号線が冠水

などいくつもの場所で、局所的豪雨による下水道の溢水被害が起きています。杉並区エリアは、1時間雨量50ミリ対策の重点整備地域になっていますが、それが現実の降雨に追いついていないのは、河川同様です。既存幹線に加え、主要な枝線を整備するなどしています。

都市型水害に対する  
心構えを教えてください

誠に申し訳ないことに、行政の都市型水害対策を待っている、大切な生命と財産を守ることはできません。とかく行政は「これだけ対策が進みました」と実績を誇る傾向がありま

す。もちろんそれは間違いではありませんが、その対策で安全が確保された訳では決してありません。そのことをご認識頂いた上で、ご自身でしっかり対策をとって頂きたいと思えます。

最初にお話したとおり、都市型水害は、ヒートアイランド現象や都市のアスファルト化を原因とする現代病ともいえ、常に想定外の災害を引き起こしています。一方で行政の行なう水害対策は、膨大な時間と費用を要し、現実の降雨に対応した計画の見直しにも時間がかかります。

そういった現実をよくご理解頂き、皆さん自身の行動で、被害を最小限に抑えて頂くしかない、心から思います。

バックナンバーはホームページをご覧ください。

- (2011年3月号) 高齢者の住まい 編
- (2012年1月号) 緩和医療 編
- (2012年3月号) 被災地の復興 編
- (2012年7月号) オリンピック 編
- (2013年3月号) 首都直下地震 編
- (2013年5月号) ロボット手術 編
- (2014年9月号) 男の子育て 編
- (2016年3月号) AED(突然死救命) 編
- (2016年8月号) オリパラのレガシー 編
- (2017年5月号) 高齢者の健康 編

皆さまのご意見をお寄せ下さい。

